



③ 北九州市のエネルギーの将来像

このように、再生可能エネルギーには克服すべき課題があります。また、製造業等で必要とされる高温の熱エネルギーは、現在は化石燃料の燃焼などによって得ていますが、これを電気に替えて対応するのは困難な部分があります。そこで、化石燃料代替として注目されているのが水素ですが、まだ市場が確立されておらず、コストも高い状況です。

脱炭素社会の実現に向けて、こうした課題を克服しながら、人々の生活や社会経済を支える脱炭素エネルギーを、北九州市のポテンシャルを最大限に生かして戦略的に確保するため、「北九州市が目指す 2050 年の脱炭素社会(p41)」に基づき策定する「グリーン成長戦略(p42)」において、風力発電・蓄電池・水素を柱とする本市の「エネルギー戦略」を示すこととします。

【北九州市が戦略的に目指すエネルギーの将来像】





④ エネルギー戦略におけるエネルギー施策(3本柱)

(ア) 風力発電推進拠点都市

背景・課題

- 国が「エネルギー基本計画」の改定をする中で、再生可能エネルギーの主力電源化に向けた動きが加速しており、今後、洋上風力発電などの更なる導入が見込まれています。
- 北九州港は、港湾法に基づく西日本唯一の基地港湾に指定されました(2020年9月)。また、響灘一帯海域は、洋上風力発電に適した風況を有しています。

本市が目指すところ

風力発電推進拠点都市

- 国内及び諸外国をカバーする風力発電関連産業の総合拠点化
- 再エネ海域利用法に基づく促進区域の指定制度などを活用し、洋上風力発電の導入を加速させるとともに、地域エネルギー会社を核とした再生可能エネルギーの地産地消体制の確立

【取組み内容】

- ・ 4つの拠点機能を備えた総合拠点の形成
- ・ 海洋土木や物流等新たな産業の創出・定着化
- ・ 風力関連部品メーカー等の立地支援
- ・ 国内外の大学と連携した風力発電人材の育成



【総合拠点のイメージ図】



浮体式洋上風力
(出典:NEDO ウェブページより)



(イ) 蓄電システム先進都市

背景・課題

- 再生可能エネルギーの導入拡大により、余剰となる電力が増加し、出力制御が発生しています(再生可能エネルギーの不安定性)
- 再生可能エネルギーの主力電源化などにより、さらに不安定性が高まる恐れがあります。
- 太陽光発電、蓄電池を普及するシステムの確立が急務です(コスト抑制、安全・安定な処理)

本市が目指すところ

蓄電システム先進都市

- まち全体へ、太陽光発電と蓄電池による自律型エネルギー設備を普及させることにより、再エネ電源の安定化を図りながら、公共施設や中小企業の再エネ 100%電力化を実現
- 自律型エネルギー設備により、災害時の停電による影響を極小化
- サーキュラーエコノミーの観点も踏まえた、太陽光パネルと蓄電池のリユース・リサイクル体制を構築

【取組み内容】

- ・ 第三者所有方式で、太陽光発電と蓄電池を普及
- ・ エコタウンと連携し、第三者所有方式で導入した蓄電池を一括でリユース・リサイクルできる体制の検討
- ・ 市有施設における再エネ 100%電力化





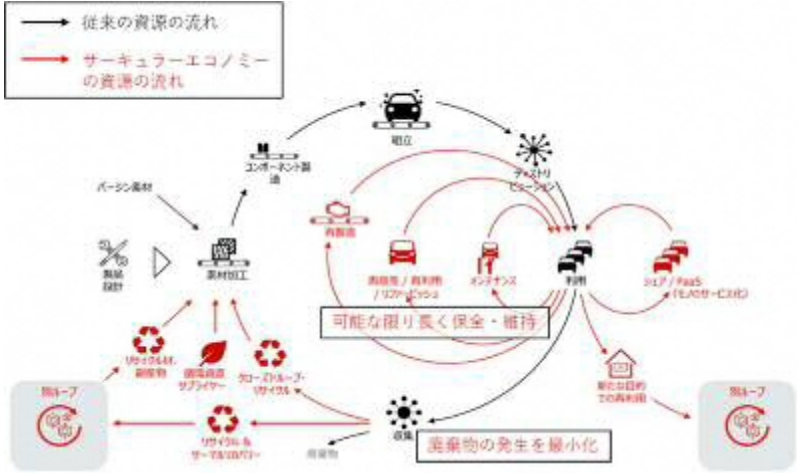
【ポイント👉】サーキュラーエコノミーとサブスクリプション

【サーキュラーエコノミー(循環経済)】

- サーキュラーエコノミーとは、従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄」のリニアな経済(線形経済)に代わる、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した経済です。
- シェアリングやサブスクリプションといった循環性と収益性を両立する新しいビジネスモデルの広がりも踏まえ、従来の3Rを持続可能な経済活動として捉え直したものです。

【サブスクリプション(新しいビジネス)】

- 料金を支払うことで一定期間サービスを受けられる方式です。
- 「所有」ではなく「利用」に重きを置いたものであり、消費者はライフスタイルに合わせて、効率的かつ実用的に商品やサービスの提供を受けることが可能です。



出典:「サーキュラー・エコノミー及びプラスチック資源循環分野の取組について(経済産業省・環境省)」より